共同利用・共同研究拠点セミナー

最近の創薬研究ストラテジーについて

―産学連携をベースに、いかに日本での創薬研究を加速させるか―

【講師】 **朴　熙万（パク　フィマン）　先生**
名古屋大学　環境医学研究所　薬効解析部門　特任准教授

【日時】 平成27年6月29日（月）16:00-17:00

【場所】 生体調節研究所 1階会議室

【要旨】　欧米のメガファーマは、いわゆる「死の谷」を乗り越えるため、創薬の研究開発ストラテジーをダイナミックに変換させた。既存のベーシックな創薬研究手法・ストラテジーを紹介するとともに、近年グローバルで展開されている創薬研究ストラテジーについて述べたい。

また、昨年度から名古屋大学の産学協同研究講座において研究を実施している経験から、産学連携の中で創薬を行う意義と可能性について議論したい。

朴先生は、ラクオリア創薬株式会社と名古屋大学の**産学協同研究部門**の主任です。民間企業の研究機能の一部をアカデミアに移す（「産」が「学」に入る）新しい産学連携方式の最前線にいらっしゃいます。

ラクオリアは、Pfizer Inc.の日本法人ファイザー株式会社の旧中央研究所（「疼痛」および「消化管疾患」を中核とした創薬研究の探索研究拠点）の閉鎖に伴い、当時の所長と一部の従業員が中心となり、研究所の主たる機能を研究開発型の創薬企業として独立させた会社です。

創薬を**「産」と「学」**の両方の視点で経験されており、アカデミアの人間が見落としがちな創薬研究のポイントなどについても、お話しいただきます。

連絡先：　群馬大学生体調節研究所・代謝シグナル解析分野
佐々木　努（027-220-8846、tsutomus@gunma-u.ac.jp）